

豊洲旬便り

2026 年 8 月号

米川水産株式会社 営業二課

～残暑・海の異変～
戻りガツオ・殻ウニ・鯖
クロマグロ豊漁災害 深刻化

季節だより

ゲリラ豪雨が過ぎ去れば、夕暮れ時には虫の音が聞こえ始める八月です。8月7日（金）は立秋。暦の上ではすでに秋ですが、残暑はこれからが本番。台風シーズンにも入り、接近時は市場の入荷が急減します。早めの在庫確保と産地情報の把握が不可欠です。

今月は変則的な休市パターンにご注意ください。11日（山の日）と14～15日（お盆）が**休市**ですが、12日（水）・13日（木）は**開市**です。

市場・水揚げ最新状況

三陸沖でようやく本格化してきた**カツオ**は気仙沼を中心に入荷量が増え始めています。しかし、**黒潮の大蛇行が終息したことで**かつてカツオの良好なエサ場だった海域が消失。和歌山・田辺方面では例年の半分程度しか水揚げされない深刻な不漁が報告されています（7月21日・マリンフーズニュース）。8月後半は脂の乗った「**戻りガツオ**」への移行に期待です。

7月から続く**マイワシの記録的不漁**に加え、函館の**スルメイカ**も壊滅的状況が続いています。同港のスルメイカ漁獲量は2008年の約9,000トンから2025年には約700トンに激減。今年も6月1日解禁後の初日水揚げゼロ、初セリは10日遅れという異常事態でした。**北大の研究者はマグロがイカを食べていることも一因**と指摘しています。

【緊急】クロマグロ「豊漁災害」と長崎会議破綻

北海道から北陸・山陰にかけての海域で、クロマグロが**記録的大発生**（「豊漁災害」）となっています。2010年比で資源量が10倍以上に回復した太平洋クロマグロが沿岸の定置網に大量侵入。水産庁データでは今年4月の沿岸大型マグロ漁獲量は前年のほぼ2倍に達しました。

しかし漁師たちは枠を超えないよう高級魚を海へ逃がし続ける「**放流地獄**」に苦しんでいます。函館の定置網漁師・中村氏は「目の前の網にいる魚を逃さなければならないのは、本当に辛いこと」と嘆きます。巨大なマグロが網の中で暴れることで本命のブリやサケ、アジまでが逃げ去り、燃油代・人件費も全て未回収となる日が続いています。

追い打ちをかけたのが**7月14日の長崎 WCPFC 会議の増枠交渉破綻**です。日本は資源回復を根拠に増枠を提案しましたが、メキシコ一国の拒否権発動で合意に至らず。現場の漁師にとっては「死刑宣告」に等しい結果となりました。海中にはマグロが溢れているのに1匹も獲れない——この矛盾が日本の沿岸漁業を限界へと追い込んでいます（7月21日・マリンフーズニュース）。

【季節を味わう】戻りガツオと北海道産殻ウニ

8月後半から9月にかけての**戻りガツオ**は脂ののってとろける旨さ。初ガツオとは別の深みがあります。北海道産の**殻ウニ**（積丹・礼文・利尻）も今が最盛期。エゾバフンウニ・キタムラサキウニともに品質・入荷量とも充実、年間で最も食べ頃の時期を迎えています。

2026 年 8 月 休市日

■ 水曜休市日

5日・19日・26日

■ 祝日・お盆休市

11日（火・山の日）

14日（金）・15日（土）お盆

※12日（水）・13日（木）は開市

満月情報（入荷注意）

8月27日（木）前後が満月。前後数日間は入荷減・高値傾向。台風シーズンとも重なるため特に注意。

△ クロマグロ豊漁災害

【長崎 WCPFC 会議 7/14 破綻】

増枠交渉はメキシコの拒否権で合意に至らず。沿岸漁師は放流地獄が継続。今後も大型マグロが定置網に大量侵入し、他魚種の漁業に深刻な影響が続く見通し。

△ 不漁情報 継続中

◆マイワシ

道東沖・銚子ともに水揚げ低調。資源量ピークアウトの懸念継続。

◆スルメイカ（函館）

2008年9,000t→2025年700tに激減。今年も初日水揚げゼロ。マグロの餌食化も一因と指摘。

これから旬を迎える魚

カツオ	殻ウニ	アジ
ゴマサバ	スズキ	タコ
太刀魚	飛び魚	アナゴ
シマアジ	コハダ	キス
イサキ	カワハギ	ハタ
など		

海流・海水温情報

◆黒潮

大蛇行終息→カツオのエサ場消失。離岸流路傾向続く。三陸沖水温上昇でカツオ北上が本格化。8月後半は戻りガツオへ移行。

◆台風・海況

8～9月は台風シーズン。接近時は入荷急減・相場急騰のリスクあり。早め早めの対応を。